

巻頭言

商大らしさ
感謝の気持ちをもち

千葉商科大学同窓会長
千葉商科大学教育後援会長

高橋 伸治
安光 利文

5 4

特集 1

採用氷河期時代の新卒採用
新型コロナウイルスシヨック後の変化
学生も企業も、交流に飢えている
2022年度(2023年卒)CUC就職戦線・総括

国際教養学部准教授
キャリア支援センター長

常見 陽平
川 瀬 功

6 13

特集 2

学長プロジェクト4 環境・エネルギー
自然エネルギー100%大学への挑戦

基礎教育機構准教授

手 嶋 進

17

学園より

大学の教育・研究活動と新型コロナウイルス感染症
感染拡大防止の両立について

学校法人千葉学園総務部長

江原 文智

23

ゼミ紹介

問いを立てる

人間社会学部専任講師

藤井 紘司

25

学生活動紹介

体育会卓球部の活動
文化団体連合会文芸部の活動
学生団体+Cの活動

商経学部経済学科3年
商経学部経営学科2年
人間社会学部2年

佐久間 優
高橋 美羽
椎名 飛翔

26 27 28

CUCレポート

- 学生開発商品のご紹介
- ニュース・イベント
- 「統合報告書2022」を発行／ほか
- 国際センターニュース
- 「アウェイ」で成長する学生たち
- 地域連携推進センターニュース
- 東京都英語村プログラム利用／ほか

千葉商科大学副学長
国際センター長

橋本 隆子

30 34 37

	<ul style="list-style-type: none"> ■ The University DINING レポーター 「サステナブルファーム体験ツアー in KURKKU FIELDS」／ほか ライブラリーニュース 「第7回書評コンテスト」表彰式開催 冊子紹介 ■ 文化団体・体育会所属各部の活動近況 ■ SONEから読者の皆さまへ ■ 断熱住宅で暮らしを快適で健康に 	人間社会学部1年	渡辺 美月	40
	<p>教育後援会活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ CUC保護者会開催について（開催報告）／ほか ■ 本部からの報告 ■ 支部からの報告 ■ 同期会からの報告 ■ OBからの報告 		広報・IT委員会	57
	<p>同窓会活動</p> <ul style="list-style-type: none"> 同窓生のお宿・お店紹介「姫ヶ滝りんご園」 昭和56年 商経学部経済学科卒業 		高藤 弘任	72
	<p>活躍する卒業生</p> <ul style="list-style-type: none"> これまでを振り返り、未来を思う 新しい景色は見えただのか。 	株式会社雪国まいたけ代表取締役社長 株式会社元代表取締役社長	湯澤 尚史 阿部 信行	73 76
	<p>CUC経営者会議</p> <ul style="list-style-type: none"> CUC経営者会議ニュース （株）畔蒜工務店取締役会長の畔蒜毅氏が旭日小綾章受章／ 内田茂男理事長をお迎えして講演会を開催／第4回親睦ゴルフ会について／ほか 			79
	<p>随筆</p> <ul style="list-style-type: none"> 箱根路へ商大の襷を繋げ 教育の「功德」 	陸上競技部後援会長 商経学部教授	星 利光 趙 軍	83 85
▼第52期・第53期同窓会維持会費等納入者一覧 87	▼同窓会役員および支部事務局一覧 98	▼編集後記 100		

商大らしさ

サッカーワールドカップでの若き日本選手団の活躍は大きな力を日本社会に与え、深い感銘を与えたのではないでしょうか。新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた、私たち日本人に彼らの雄姿は希望をも与えてくれました。彼らのプレーを見ていて、何が起ころかわからない世界で最後まで頑張ることの大切さを教えられたと思います。

強くなった「スポーツ選手」と弱くなった「日本企業」では、どこが違うのか。守るものが多くなった現在の日本企業は大きな変化を望んでいません。しかし、海外に出て、誰も守ってくれないスポーツ選手は自分で変化を起さなければ、生き残ることはできません。その差に大きな違いを感じています。情報革命と機械化の中で、この先にどのような産業や職種がなくなり、どのような産業や職種が生まれるかは誰にも予想できません。

急激なりモトワークの導入で、教育関係も大きく変化しました。本学でもオンラインによる授業は避けて通れない大きな課題です。世界中で受け入れられる新たな学園環境への模索も始めなければなりません。また、「社会が必要とする大学」としてのキャンパスライフの在り方とどのような整合性を持たせるのが楽しみです。学園のような価値観の違う人たちが集まる場所には「理

高橋 伸治

● 千葉商科大学同窓会長
(昭52商)



念」が必要です。ですから、「商大らしさ」を確立し、その理念のもとに、情報格差を生まない学園創りをお願い致します。

私たち同窓会は、母校のための同窓会であり、会員皆さまの同窓会であり続けなければならないことは自明の理であります。そして、母校の前進と歩を合わせて本会も歩み進展していかなければなりません。私たち同窓会の理念は、「会員相互の交流と親睦を図り、組織および会員の発展・充実および建学の精神に則った千葉商科大学の発展に寄与すること」であります。

その中で、今年、「同窓会もこんなに若い人が増えまして」と言えるような活動に役員一同、邁進して参ります。これからの学校経営は多くの難題を抱えて、その舵取りは想像を絶するものになるかもしれません。その中で、本学はしっかりした理念のもとに着実な経営戦略を掲げて、前進を続けています。これからの時代は今求めている感覚が必要です。常に新たなゴールを探し求めることが義務付けられています。行動も考え方も日々新たに、同窓会も卒業生・大学・在学生と一体となって支えて参りたいと思っております。よろしくお願い致します。



千葉商科大学
同窓会
公式Webサイト
二次元コード

これまでを振り返り、 未来を思う

湯澤 尚史

株式会社雪国まいたけ 代表取締役社長
平成7年 商経学部商学科卒業



私が卒業を迎えた1995年は、バブル崩壊後に始まった経済の停滞と厳しい就職難に加え、年明け1月に阪神・淡路大震災が発生、後に失われた20年初期に組み込まれる、日本全体がその痛みに戸惑い、苦しみながら先の見えない暗闇に立っている時期でした。

未来を思い描くことが難しい状況の中でありましたが、就職先は常々、実家である新潟県で、と決めていました。多くの地域の方は新潟県を余りご存じないことを肌身に感じていて、これは価値あるモノがあり、かつ、知られていない地域が多いということは、新潟はある意味ビジネス

スチャンスではないかと考え、その地のメーカーを探しました。

結果、全国的には知名度の低かったものの、貴重で見つけた人が舞い踊る〴〵と言われた舞茸を、初めて人工栽培に成功した会社として当時の新潟証券取引所に上場したばかりの「雪国まいたけ」に営業職として入社し、東京営業所に配属されました。

若き日々は、取引先にパスタなどの提案をすると、「茸にそんな使い方があるのか」と訝しがられ、遠いエリアになるほどに、商品自体を知られていない現実に直面し、

しかしその用途やエリアのギャップこそが伸びしろでもあると、浸透していく手応えも感じていました。

それから30年近くが過ぎ、当社はその後、幾多の変動期を迎え一時は上場を廃止しながらも、マツシユルムなどのさまざまなラインナップを拡充しつつ販売網を拡大し、葺総合メーカーとして多角化を進めて2020年に東京証券取引所第一部に再上場致しました。

時を同じくして新型コロナウイルス感染症の蔓延が始まりました。さらに2022年ロシアのウクライナ侵攻が開始され、世界全体を巻き込んだ未曾有の脅威の発生により、各社が作り上げた世界中のサプライチェーンが断ち切られ、各国で原材料、エネルギーコストが急上昇したことはご承知のとおりです。

さらに食料でいえば、日本の自給率はカロリーベースで30%台と海外に依存した低さで、支える農業就業人口は私の入社時で既に400万人を切っていましたが、今日では200万人を下回り、平均年齢はおよそ70歳と超高齢化に達し、囁かれていたものが人類共通のリアルな危機によって、すぐ手の届く先の危機として明確になってきました。

安定した工場生産での葺事業の責任はこの先も高いと確信しつつ、この大転換期を迎えて次の30年を超える新たなバリューチェーンを再構築することに、現在全社一丸となって取り組んでいます。

このように企業が一丸となって取り組む際に、世代、国籍、性別などは関係なく幅広い従業員の方との対話が欠かせませんが、その折にいつも思い出すことがあります。

それは大学の卒業旅行で高橋正先生と訪問したトルコ、ギリシア、エジプトの三大陸の旅行のことです。これは古代史から現代と、東洋と西洋を、世界の深淵と広大さを、立体的に自分の中で築き上げることとなった体験でした。

イスタンブールでは現地大学生と交流し、モザイク模様の街を歩き、アテネでは日本大使館を訪問し、アクロポリスの丘を登り、カイロではピラミッドに入り、ルクソールでは現地の方からナイル川を眺めながらエジプト人のルーツを聞き、夜な夜なホテルで先生の部屋に集まっては、高級葉巻をいただきつつ世界中の話を聞かせてもらおう、あの一緒に過ごさせていだいた全ての時間

を、今も忘れることはありません。

学ぶこと、価値ある体験をすること、この人間が本来持っている本質的な欲求を思う存分受けることができるのは、どれほどの喜びと充実感、そして成長に繋がることなのか、若い学生たちに夜遅くまで付き合いながらも全く疲れた様子を見せない先生の姿に、身をもって教えていただきました。

帰国後、社会に踏み出し世相を覆う暗闇の中で、この時の体験で芽生えた向上心と世界への畏敬が、どれほど足元を照らす灯りとなってこれまで支えてくれたか、はかり知れません。

私はゼミ生ではありませんでしたが、先生にはその後もよく目をかけていただき、ご自宅に招いていただき、結婚式にご出席していただき大変お世話になりました。

2015年に訃報をお聞きし、生前に恩をお返しすることが全くなかったことが、今も心より悔やまれます。そして感染と戦争の一刻も早い収束により世界各国において平和で安全な世界が戻り、私のような体験が、普通に享受できる学生生活が再来することを切に願って

おります。

これからも本学で受けた教えとその後の経験をもとに、成長というかけがえない素質を持つ人的資本と、対話による多様性を大切に、外的環境の変化に柔軟な企業となり、持続的な成長と自然との共生を目指し、社会的責務を果たして参ります。

末尾になります。この度は母校より寄稿の機会を頂戴し、改めて厚く御礼申し上げます。

母校の益々のご発展と同窓生の皆さま、教職員、教育後援会保護者の皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。結びとさせていただきます。

新しい景色は見えただのか。

阿部 信行

(元)ミニストップ株式会社 代表取締役社長

(現)イオン保険サービス株式会社 営業副本部長

昭和57年 商経学部経営学科卒業

2022年のワールドカップカタル大会はアルゼンチンの優勝で幕を閉じました。日本代表は強豪ドイツ、スペインを予選リーグで撃破する素晴らしい活躍をし、日本を熱狂させました。

その熱狂の中、私の脳裏をよぎったのは2011年11月千葉商科大学ユニバーシティ・アワーに呼ばれ、講演をさせていただいたシーンでございました。

私がミニストップの社長をしていた当時、サービス創造学部の吉田学部長のご要請を受け「世界で勝負するミニストップ」といタイトルで講演したのですが、そこで、



私は冒頭のパワーポイントで前年のワールドカップ南アフリカ大会のデンマーク戦で強烈な無回転フリーキックを放ち日本を決勝トーナメントに導いた本田選手のゴールシーンを使わせていただき、彼の発言「オンリーワンなんてナンバーワンをめざした先にしかない」についてお話をし、ミニストップが目指すナンバーワン戦略を披露させていただきました。

あの南アフリカ大会での本田選手の無回転フリーキックは、その当時の日本のサッカーにとっての「新しい景色」を見せてくれていたのではないかと思います。

カタール大会での森保監督はクロアチア戦の敗戦後のインタビューで「新しい景色は見せられなかった」との話をされていましたが、おそらく多くの日本国民はドイツ戦での堂安選手と浅野選手のゴール、スペイン戦での三笥選手の「1ミリの奇跡」のクロスボールに感激し、はつきりと「新しい景色」を見せてもらったと思っただけではないかと思えます。

千葉商科大学の4年生の10月もかなり過ぎた頃、私は東京で行われたジャスコ(イオンの前身)の新卒の追加採用の説明会に参加していました。今では小売業日本一になっているイオンですが、当時はダイエー、イトーヨーカ堂、西友に次ぐ4位。スーパーマーケットに就職するかな?と思って聞いていたその時、ジャスコの講師の方は「ミニストップという新しいかたちのコンビニエンスストアの営業を開始した」と話し始めました。

コンビニエンスストアに本格的なファーストフードを併設したそのミニストップというお店の話に聞き惚れてしまい、説明会が終わった直後、私は講師のもとに駆け寄り、ミニストップの本社の住所を教えてください、その足で、ミニストップ本社にアポなし飛び込み訪問をしてい

ました。

既に内定式も終わっていた時期でしたが、人事担当者には、快くすぐに応接室に通してくれ、色々話をしていたら、何を気に入ってもらえたかはわかりませんが、その場で「合格です。今度内定者のセミナーがあるので参加してください」と言われました。なにか狐につままれるような出来事でしたが、そのような感じで、社会人としてのスタートを切りました。

最初に配属されたのは東横線の元住吉店。コンビニならではの三交代制の勤務でさまざま深夜勤務を経験、昼間の勤務にシフトが変わるときは休みなしで、深夜勤務から昼間の勤務にそのままシフトを継続することが当たり前であり、18時間以上普通に働いていました。若者でしたので難なくこなせましたが、今なら完全にブラック企業の烙印を押されたことでしょう。

そして、入社して1年近くになった頃でしょうか、別の直営店の新店である川口店に店長として赴任しました。しかしその店は売上が極めて厳しい立ち上がりになってしまい、店長としてのバカな責任感から私は開店から1カ月1日も休まずに働き、遂にある日の朝、起きること

ができない事態に陥り、朝7時に開店(当時は24時間営業でない店も多かった)をすることができない事件を起こしてしまいました。コンビニで店を開けられないなんて、です。本当にクビになると覚悟しました。その時に駆けつけてくれたのは上司の横尾さんという方でした。とんでもない叱責を受けるのではと思いましたが、横尾さんは怒ることもなく身体を休めることと、お店をどうやってよくするかについて話してくれました。横尾さんは、それから17年後には社長になり、その後会長に。最後はイオンの取締役会議長になりました。私がミニストップの社長をしていた頃の会長ということです。

店舗勤務の後は、加盟店の経営指導する仕事を6年ほど経験し、千葉地区のエリアマネージャー、本社の開発推進部長、東京や神奈川の営業部長、東海の営業部長を歴任、38歳の時に取締役開発本部長を拝命し、49歳の時に代表取締役社長にさせていただきました。昨今のコンビニ業界ではフランチャイズオーナーとフランチャイズ本部とのトラブルも多く社会問題のように報道されていますが、私がミニストップにいた31年間は時代がコンビニを圧倒的に求めていますので、フランチャイズ本部

は加盟店を支えることに心血を注いでいましたし、加盟店側も本部を信頼し、とても努力していただき、大変良い関係構築ができていたと思います。

「世界で勝負するミニストップ」につきましては、社長在任の5年間で中国青島、ベトナム、カザフスタン、インドネシアへの進出を果たし、既に出店していた韓国、フィリピンと合わせ6カ国に展開し、世界の店舗数を5000店にすることができました。私が退任して10年後の現在、ベトナムを除き撤退しているのは寂しい限りです。

ミニストップ退任後は、マレーシアのイオンアジア本部、ベトナム現地合弁会社とのスーパーマーケットの社長、日本に戻って映画館のイオンエンターテイメントの役員、メガスポーツ(スポーツオーソリティ)の役員をし、今はイオン保険サービスという保険代理店業の営業副本部長をしています。

2023年。私は64歳になります。あと1年でイオングループは卒業するつもりです。

私のこれからの「新しい景色」はまた自分でイチから切り開いていきます。ミニストップ本社へアポなし飛び込み訪問したあの頃のように……。